団体長 新年あいさつ

ロボットやIoT活用を熟考

国際工業塗装高度化推進会議
理事長 窪井 要

あけましておめでとうございます。IPCO理事長の窪井要です。

旧年中はIPCOの活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。また、本年も工業塗装のあるべき姿を具現化すべく活動し、地球環境保全に最大の努力をしてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、改めて言うまでも無く昨年は新型コロナウイルス（COVID-19）が猛威を振るい、今まで経験したことのない局面にさらされ、ほとんどすべての産業で大きな痛手を負うこととなりました。年が明けても、今後の経済復興への道筋が見えない状況です。そんな中、否応なく働き方が改革された一年だったことは意見の一致するところでしょう。

昨年4月7日、当時、安倍総理は、官邸において新型コロナウイルス感染症対策諮問委員会を開催し、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、大阪府、兵庫県および福岡県の7都府県に緊急事態宣言を実施しました。ヨーロッパで行われて「都市封鎖」のような強権的なものではなかったにせよ、弊社の近くを走る関越自動車道に車の姿が無かったことが今でも記憶に焼き付いています。経済は止まり、健康への不安とともに経済への不安もつのりました。

このような、人的にも経済的にも大きな痛手を受けている中、塗装関連のメディアから聞こえてきた未来に取り組むべきキーワードは、「自動化」です。そもそも少子高齢化が叫ばれて久しい中、多くのエンジニアがテレワークとなり、現場を回すための方法の一つである自動化は待った無しと考えられます。数年前から塗装の現場においてロボットの活用は多く見られて、また、しかしロボットだけに留まらず第4次産業革命はその先の未来も照らし出しています。

東京都立産業技術研究センターではロボット支援に続きIoTに対しても拠点を設けて支援してくださいました。そして昨年、いよいよ5Gの支援に乗り出したのです。ロボット、IoT、5Gと続く一連の流れはまさに第4次産業革命を推進するエンジンです。自動化の流れはコロナ禍においても今まで以上に加速することとなるでしょう。

IPCOでは昨年12月に東京都立産業技術研究センターの「中小企業のIoT化支援事業」より共同研究の採択を受けることができました。研究開発のテーマは「VOC量を常時監視するIoTシステムの開発」です。今年一年をかけ、リスクアセスメント自線で工業塗装の現場におけるVOC量を確認、記録するための装置と運用の仕組みを構築します。装置としての方向性はほぼできています。後はこの装置をいかに現場の安全安心に結びつけるために働かせるかで、ここからがIPCOの腕の見せ所だと考えています。業界のスタンダードを書き換える第一歩となれるよう努力する次第です。

さて、今年1月に開催される世界経済フォーラム（WEF）の年次総会「ダボス会議」のテーマは「グレート・リセット」です。これは既存の経済・金融の枠内の話ではなく、経済状況の再編であり「経済史の転換点」となる時期に来ていることを示します。ウィズコロナの時代を生きる者として、この大きな転換点をどう生きるか、試される時代になってきたのだと理解すべきなのではないでしょうか。これまで行ってきた行動を見直し、ロボットやIoTの活用について熟考し、今までの良さを新しい仕組みの中でどう生かすべきか、新しい仕組みをどのように取り込めるのか考える時なのだと思います。

「新しい経済と社会は大不況から生まれる」と言われています。脱炭素社会、循環経済の実現、再生可能エネルギー（今後のエネルギー戦略）、産業再生、事業再構築、科学・技術イノベーション

共同の力で課題解決

大阪府塗装工業協同組合
理事長 川原 貞儀

新年あけましておめでとうございます。

2021年の新春を迎えるにあたり、業界関係者の皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスによる感染症の拡大という「未曽有の事態」に見舞われ、人々の日常生活、価値観が大きく変化した一年でありました。

塗装業界においても、政府の「緊急事態宣言」発出以後、人やモノの動き、経済活動が大きく制限されることとなり、売上高や営業利益の大幅な減少や、先行き不透明感が続く中、新規受注が見込めないなど厳しい状況がみられました。

2021年は、大阪・関西万博の開催に向けたインフラ整備の本格的始動や、東京オリンピックなどのイベント効果の押上げ、5Gの普及、世界経済の立ち直り等を背景に、景気回復が大いに期待されるところですが、当面は感染症の拡大防止と経済活動の両立が図られる中で、緩やかなペースで進むことが予想されます。

このような中、組合員企業が持続的に成長、発展を遂げていくためには、自らの事業の生産性の向上や収益力の強化を図るとともに、人・モノ・資金・情報などの経営資源を組合員相互で補完しながら、共同の力で課題解決しようとする協同組合の取り組みが極めて重要であると存じます。

組合では、理事を中心に6つの委員会活動を積極的に展開しており、国の公共工事の発注等に係る入札制度や軽微な工事に係る営業許可の取扱いなどについて、近畿地方整備局との意見交換を継続的に実施するとともに、アスベストやフルハーネスに係る労働安全衛生関係法令をテーマにした「安全大会」の開催や、大阪・関西万博のインフラ整備の進捗状況についてのインタビュー、外国人技能実習生との座談会の実施や、鋼橋塗装に係る技能検定試験の取り組みなど、専門工事業者の受注確保や塗装に携わる職人の技能と社会的地位の向上、組合の魅力づくりのための情報発信事業など、多様な取り組みを実施しています。

また、新型コロナウイルス感染症の発生など事業環境が大きく変化する中、7月に組合員の経営実態や課題、組合活動への期待・要望等を把握するため、「組合員意向調査」を実施したところですが、多くの組合員は若い人材の不足や売上高の減少、コスト増などさまざまな課題を抱えており、組合に対し人材の確保や育成・定着、公共・民間工事の需要開発、業界や組合のPR活動等情報発信力の強化などを求めています。

これを受けて、10月に各事業委員会委員長を中心に、「組合ビジョン策定委員会」を設置し、現状と課題の整理分析、課題解決に向けた取り組み事業の選択と優先順位、目標設定と達成に向けたスケジュール等について、専門家を交えて検討を進めているところです。

今後とも、組合員皆様の声をしっかりと受け止め、公正な経済活動の機会確保と地位向上をめざして努力してまいる所存ですので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、組合員、賛助会員、関係者の皆様にとりまして、本年が実りある素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げまして年頭のごあいさつとさせていただきます。

業界団体が同じベクトルで進む

大阪塗料商業協同組合
理事長 中山 保幸

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素は大阪塗料商業協同組合の運営にあたりまして、格別なるご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、組合の運営につきましては、理事会・委員会をはじめその他の事業も、委任状、書面議決を中心とした少人数での開催もしくは中止となり、組合員の皆様にはご心配ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

昨年はご存知の通り、新型コロナウイルスによる影響で、塗料業界はもとより日本中、世界中の社会、経済が麻痺し、春には緊急事態宣言が出され、人・物・金の動きが完全に動かなくなりました。

本来であれば、2020年東京オリンピックが開催されて、日本中が盛り上がり、記念すべき一年となり、一つの時代が終わり2021年から次の新しい時代へのスタートとなるはずでした。

リモート・在宅勤務を初め、社会の形が以前と大きく変わろうとしている今、昨今言われている「働き方改革」も加速しながらの舵取りを余儀なくされるのではないでしょうか。

塗料業界としては、昨年より抗菌・抗ウイルス塗料等、新しい機能性商品が多数発売されています。今こそピンチをチャンスに変えるために、製・販・装が一体となり、各業界団体が同じベクトルで進みたいと思います。

今年ほど先行き不透明な年は過去にないと思いますが、日本も長期間の安倍内閣から菅内閣に、アメリカもトランプ大統領からバイデン氏に代わろうとしています。

きっと違った形になるでしょうが、東京オリンピックが開催される事を信じて、今一度明るい社会、日本になり、塗料が明るい街の保護と美観の一助となり、我々もその役割を果たしていければ幸いです。

残念ながら昨年は中止となりました展示会「これ知っとく展」は、リモート・動画等形を変えて開催する予定です。従来の事業に変化を加えて新しい形で運営したいと思います。

本年も、組合員の「共通の利益の向上」を念頭に、足元を見据えながら、運営課題を企画、実現に向けて活動してまいります。

メーカー、賛助会員の皆様には、今年も変わらず多大なるご支援、ご協力をお願い申し上げます組合員の皆様におかれましては「共存・共栄」の理念のもと一致協力し、何卒なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

最後に皆様にとりまして幸多き一年になりますように祈念しております。

環境適応／関連資材製品ガイド

エスケー化研
防食性優れる水性さび止め塗料
外部環境でも使用可能

塗り替え工事、大規模修繕工事等については居住者がいる中で工事が行われるため、臭気や環境への配慮は重要だ。外壁塗装については従来より水性化が進められている一方で、鉄部塗装に関しての水性化はそれほど進んでおらず、弱溶剤塗料が多く使用されていた。

エスケー化研では水性塗料でありながら、外部環境でも使用が可能な、防食性に優れた一液水性反応硬化形エポキシ樹脂さび止め塗料「エスケースマートポーセイW」をさび止め塗料のラインアップに加えた。エポキシ樹脂の優れた密着性と鱗片状無公害防錆顔料により、優れた防食性を発揮する。特に、作業時に気になる臭気についても低臭であり、住民や施工者の負担軽減にもつながる。

その上塗りには鉄部用の水性上塗材として「エスケースマートシリコンW」を使用。従来、水性鉄部用塗料で問題であった皮脂軟化に着目し、架橋密度を高める樹脂設計および塗膜と油脂成分を水分等による劣化に対しても優れた抵抗性を示す。また、レベリング性に優れ、平滑な塗膜を形成し仕上がりが良いことも特長だ。

これら製品における各々の優れた特長の相乗効果により、高付加価値を提案するとともに、鉄部の水性化、環境対応が進んでいくものと期待される。

☎072・621・7733

神東塗料
省エネ、高日射反射率塗料
ダブルブロック効果で冷房負荷低減

神東塗料が展開する「サーモバリア」シリーズは、塗装するだけで省エネが図れ、室内を熱から保護する高日射反射率塗料（遮熱塗料）である。同シリーズには、2液弱溶剤ふっ素樹脂塗料の「サーモバリアマイルドF」と、2液弱溶剤アクリルシリコン樹脂塗料の「サーモバリアマイルドSI」の2種類がある。

一般の屋根用塗料は吸収された赤外領域の光が熱となり、屋根の表面温度を上昇させる。しかし、「サーモバリア」シリーズは赤外線反射率の高い特殊顔料処方による上塗りと専用の下塗りとのダブルブロック効果により、赤外領域の光を反射。室内温度の上昇の原因となる熱の吸収を防ぎ、室内環境を保つ。また室内温度の上昇を抑えることで、冷房負荷の低減が期待できる。

塗膜は親水化を図り、低汚染化を実現。経年の汚れによって遮熱効果が低下しにくく、長期にわたって快適な環境を保つ。

「サーモバリアマイルドF」には、従来のふっ素樹脂塗料より耐候性の高い4フッ化型ふっ素樹脂を採用。また「サーモバリアマイルドSI」はアクリルシリコン樹脂を採用することで、いずれも紫外線に強く、優れた耐候性で長期間遮熱性能を維持する。これによりライフサイクルコストの削減を実現。さらに、省資源化にもつながる。

用途は、一般倉庫、工場、体育館などの学校施設、戸建て住宅などの屋根材（窯業系素材および金属素材）。工場などのタンクおよびプラント設備。標準色は14色。

☎06・6426・3763

日本特殊塗料
水性ウレタン樹脂系プライマー
同社遮熱塗料との相性抜群

日本特殊塗料の「NT水性塗り替え用プライマーU」は、2液水性ウレタン樹脂系で臭気が少なく、ホルムアルデヒド放散等級「F☆☆☆☆」で室内使用無制限（日本塗料工業会登録）となっている。水性なので、施工がスムーズにでき、同社の遮熱塗料との相性も抜群だ。

中でも1液型ガラス面用省エネ・遮熱塗料「NTサーモバランスNEO1」、2液弱溶剤フッ素樹脂外壁用遮熱塗料「パラサーモフッ素外壁用」、さらには屋根向けでも2液弱溶剤フッ素樹脂屋根用遮熱塗料「パラサーモフッ素」を強力に展開中だ。

「NTサーモバランスNEO1」は、既存の窓ガラスに室内側から塗装する透明タイプの赤外線・紫外線吸収塗料。太陽光に含まれる赤外線を窓ガラス面で吸収することで、夏場は室内の冷房効率を、冬場は暖房効率を高める。

また、カーテン、窓際に設置したラックの本や家具の色褪せを大幅に低減する。F☆☆☆☆の認定を受け、安全性が高く環境に配慮し、施工面では足場を組む必要がないが、改修時の施工がお奨めである。

「パラサーモフッ素外壁用」は同社の信頼性と実績を誇る遮熱技術に要望の多いフッ素樹脂性能を融合し、最高レベルの耐候性と耐久性を両立させた多機能遮熱塗料。最高の耐候性と耐久性で外壁を守り、優れた遮熱・省エネ効果や下塗りの選択により多様な外壁材をカバーなど高い拡張性を発揮する。

「パラサーモフッ素」は卓越した遮熱技術に弱溶剤フッ素樹脂を融合させて優れた遮熱性能と最高クラスの高耐候性および高耐久性を発揮。屋根の美観を強力に長期間維持するとともに、室内への熱の侵入を遮断し室温の上昇を抑え、省エネに貢献する。豊富で高光沢な色彩や防かび・防藻性能も優れる。

☎03・3913・6153